

確かな学力を身に付けるために

～基礎学力・学習規律の確立に向けて～

御所市立大正小学校

I 本校児童の実態

平成19年度から始まった全国学力・学習状況調査を実施して3年目になるが、本校の課題を整理してみると以下のとおりとなる。

1 本校児童の実態

学習面	生活面
<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力が低く、個人差が大きい。 読解力が低い。 学習への根気強さ、学習意欲が弱い。 コミュニケーション能力が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣が身に付いていない。 きまりを守る等規範意識が低い。 家庭学習の習慣が定着していない。

2 全国学力・学習状況調査の結果から分かったこと

- 国語・算数いずれにも無解答の問題が多い。
 - 基礎的な知識・技能に関する正答率が低い。
(国語A・算数Aの結果より)
 - 基本的な生活習慣が身に付いていない。(児童質問紙より)
- 以上のことから、右の3点を柱として取組を進めた。

取組の柱

- 1 基礎・基本の定着を図る。
- 2 学習意欲の向上を図る。
- 3 家庭学習の定着と基本的な生活習慣を確立させる。

II 取組の内容

1 基礎・基本の定着を図る

①朝のびタイムの充実

毎朝8時30分から10分間を読書タイム、続いての10分間を「朝のびタイム」として基礎学力の充実を目指したプリント学習(漢字・計算)を実施する。

【朝のびタイム 週予定】

	月	火	水	木	金
8:30～8:40	読書タイム	読書タイム	朝のびタイム(計算)	読書タイム	読書タイム
8:40～8:50	朝のびタイム	朝のびタイム	朝のびタイム(漢字)	朝のびタイム	朝のびタイム

低学年ではこの取組が功を奏し、ほとんどの児童が基礎・基本をマスターできるようになった。また、中学年、高学年においても徐々に効果が表れてきた。例えば漢字の読み書きでは、2年生以上の12学級のうち8学級で4月よりも平均が上回った。これは、「朝のびタイム」の成果だと考えられる。

【漢字読み書き - 基礎学力の充実を目指して - 50問テスト】

	1年		2年		3年		4年			5年		6年		
	1組	2組	1組	2組	1組	2組	1組	2組	3組	1組	2組	1組	2組	3組
4月(前学年復習)			81.0	86.0	75.0	89.8	55.0	47.0	50.0	79.0		76.0	56.5	74.8
7月(1学期末)	96.7	96.7	86.0	84.3	71.0	86.0	60.0	52.0	65.0	85.0	42.4	82.0	68.5	83.7
9月(復習)			96.7	94.6	68.0	80.0	55.0	56.3	67.4	88.6	59.2	70.8	81.5	77.0
12月(2学期末)	91.7	96.5	95.9	93.2	76.3	81.6	76.0	66.6	75.7	66.0	65.0	80.4	79.4	73.4
4月との比較ポイント			14.9	7.2	1.3	-8.2	21.0	19.6	25.7	-13.0	※22.6	4.4	22.9	-1.4

※5年2組は7月との比較

斜字

前回より上昇

合格点(80点)未満

4月より上昇

②「問題作成データベース」の活用

各学年で国語と算数は問題作成データベースを活用している。個に応じた問題が作成できることが利点であるとともに、問題数が少ないので、プリントが終わったらすぐに採点ができる。何度も繰り返して完全に定着するまで取り組ませることも可能である。

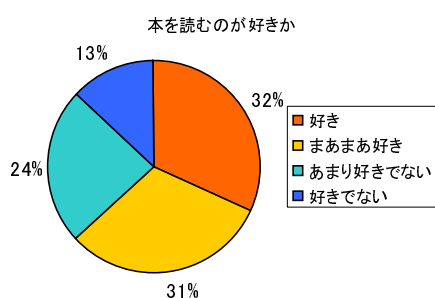
③読書タイム

本校では、市立図書館より1か月ごとに100冊ずつ借りて学級文庫を充実させるなど、環境整備に取り組んでいる。また、朝読ボランティアの方には週2回来校いただいている。学期に1回に開催する45分間のお話会は、児童にとって楽しい時間となっている。

さらに、1か月に読む本の冊数4年生で調べたところ、下の表のような結果となった。

【1か月に読む本の冊数】

	平成21年5月
全国	8.1冊
本校4年生	2.4冊



毎週図書室で読書の時間を確保しているにもかかわらず、5月の調査では、1か月に読む本の冊数は、全国平均の4分の1という結果であった。そこで、図書室で読んだ本の題名をノートに記録するようにした。

その後、平成22年2月読書に対する関心度を4年生で再度調査してみたところ、「本を読むのが好きですか」の設問に6割の児童が「好き」「やや好き」と答えている。5月に行った調査では、1か月に2冊程度の読書量であったが、本好きな児童が増えてきたと考えられる。しかし、まだ4割の児童は「あまり好きでない」「好きでない」と回答しており、課題が残った。

2 学習意欲の向上を図る

①分かる授業を目指す職員研修

本校の課題について職員研修で話し合ったとき、「教員の指導力向上が必要である」という意見が多く上げられた。そこで、授業研究を積極的に行って互いに高め合うようにした。授業研究の教科は国語、算数とし、講師を招へいして行う。さらに3学年部会の授業を自分の得意教科で行い、それぞれの授業を公開し合って協議している。研究テーマは、「伝え合う力、学び合う力の育成」とし、国語科や算数科において自分の考えたことを相手に分かるように伝え、聞き、互いに学び合うことを目指している。

さらに、学級集団づくりや個別の事例に対応したケース会議など、本校の課題に対応した授業公開を伴わない多く研修も取り入れるようにした。

授業研究

日 程	学年・組	教科
6月16日(火)	6年1組	国語
6月24日(水)	3年1組	算数
7月8日(水)	6年3組	社会
10月7日(水)	5年2組	算数
10月14日(水)	1年1組	国語
11月18日(水)	2年2組	算数
11月26日(木)	4年2組	国語
12月4日(金)	1年2組	道徳
2月25日(木)	4年1組	国語

教職員の授業力を高める研修

日 程	内 容
6月30日(火)	個別対応の方法について(ケース会議)
7月30日(木)	1学期の取組の見直しと2学期に向けて
7月31日(金)	学力保障と仲間集団について
8月4日(火)	国語科「大造じいさんとガン」教材研究
8月6日(木)	個別対応のケース会議
9月2日(水)	学級集団づくり
10月28日(水)	今年度の全国学力・学習状況調査から
12月16日(水)	新学習指導要領(国語)の解説と国語の指導
1月7日(木)	3学期の取組について
1月20日(水)	1年間の取組の効果を話し合う
2月24日(水)	来年度に向けての課題を明らかにする

②学習規律の確立

低 学 年	○だまって最後まできく
	○話す人を見てきく
	○相手の気持ちを考えながらきく
	○わかったらうなずく

高 学 年	○相手の目を見て聞く
	○自分の意見と比べながら聞く
	○話し手に心を寄せて聞く
	○大事なことを聞きとる

各教室には「聞く力」を身に付けさせることを目指して、上記の掲示をしている。さらに、発表の仕方もモデルを掲示するなど、学習規律の確立を目指す取組を行っている。

3 家庭学習の定着と基本的生活習慣の確立を図る

①家庭学習の定着

奈良県教育委員会が作成した保護者向けのリーフレットを5月のPTA総会で説明するとともに、6月の参観日に配布し、懇談会で話し合った。また、学年ごとに家庭学習の目安の時間を決め、その時間に応じて毎日宿題を出しているが、なかなか定着できない状況である。学校だよりも家庭における学習時間の確保の必要性を紹介し、協力を求めている。

②生活習慣の確立

平成21年度の学力・学習状況調査の児童質問紙調査結果から

項 目	全国	本校
朝食を毎日食べていますか	88.5 %	69.0%
学校へ持って行くものを前日か、その日の朝に確かめていますか	65.6 %	50.7%
学校のきまりを守っていますか	63.1 %	53.5%
1日どれくらいの時間テレビゲームをしていますか（2時間以内）	24.4 %	26.8%

本校はすべての項目で全国と大きな差が見られた。

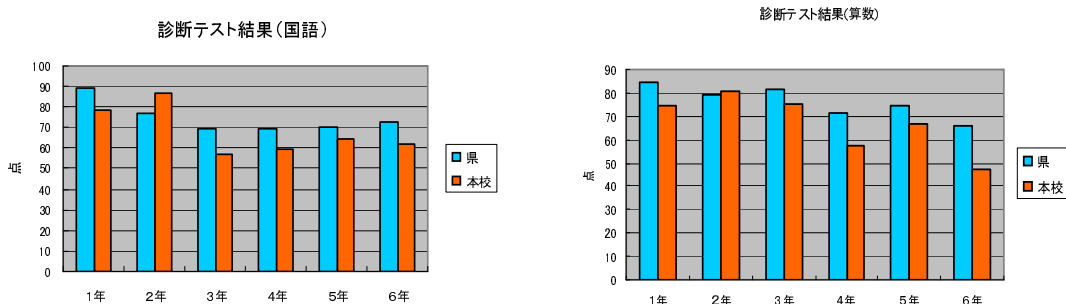
そこで、朝食の摂取状況とテレビゲームをしている時間について調査を行った。毎日ほとんど同じ児童が朝食を食べて来ないことが明らかになり、保護者に対し、「朝食はエネルギーの元である。朝食抜きは学習への集中力も下がる。」ことなどを伝え、改善が図られるようお願いしている。

テレビゲームや携帯電話のメールについては、6月に「携帯電話に潜む危険性」の演題で保護者対象の教育講演会を実施し、啓発を行った。

III 実践の評価

(指標1) 学力向上について

下記のグラフは平成21年度の奈良県国語と奈良県算数の診断テストの結果である。



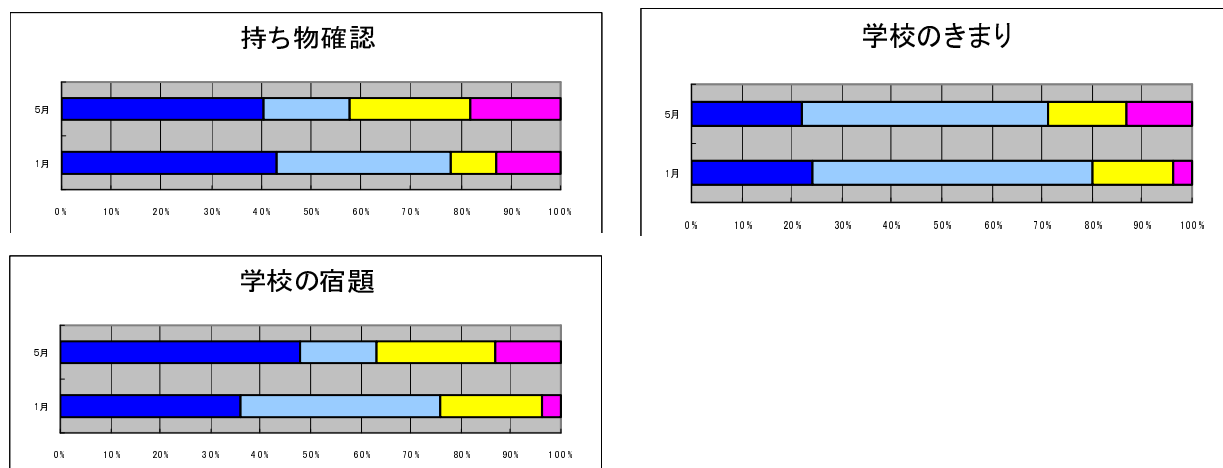
2年生はいずれも県平均を上回り、国語では10ポイント以上も上回っている。これは、毎日10分の朝のびタイムを有意義に使い、徹底して計算・漢字の取組を進めた結果であると考えられる。

漢字指導では、ノートを2冊準備し、1冊は漢字を使った短文を書くため、もう1冊は筆順や漢字の意味、読み方などを書くためとした。

また、計算は徹底してプリント学習を実施した。また、文字は「はね」「はらい」に気を付けて丁寧に書かせる。丁寧に書くまで書き直しをさせるようにした。宿題を忘れた場合は、必ずその日のうちにさせる。家庭学習の時間を30分と定めて、必ずさせるようにした。

保護者に対しては、PTA役員会で「学校では学力向上に取り組んでいる。家庭学習の時間を決めているので、協力をお願いします。」という説明を毎回行っている。「このごろ机の前に座って宿題をするようになってきた。」「毎日の宿題の内容が変わってきて、少し時間がかかるようになってきた。」という声が少しずつ聞かれるようになってきた。

(指標2) 基本的な生活習慣、規範意識について



- 「学校へ持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか」の項目では、年度末に再調査を行った結果、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせると80%近い結果が見られた。全国平均は85%であり、まだ差が見られる。
- 「学校のきまりを守っていますか」の項目では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせると80%に増加した。全国平均は86.3%だったが、近づいてきたととらえている。
- 「家で学校の宿題をしていますか」の項目では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせると、75%である。全国平均は95.2%であり、まだまだ大きな差が見られる。

IV まとめ

本校の低学力傾向は、長年にわたる大きな課題である。今年度、本事業に取り組むことによって、「何が原因なのか。」「何から始めなければならないか。」「取り組まなければならない課題は何か。」が明確になった。

本年度の研究は、子どもたちの学習意欲を高めるための授業研究を行い、教員の授業力向上にスポットを当てた。また、学習したことが定着しない要因に家庭学習の習慣化がなされていないことがうかがえる。そこで、保護者に協力を求め、家庭で学習する時間を決め、そのために宿題の工夫もなされた。

しかし、それがすぐに結果として望ましい数値で表れたとは言えないが、徐々に学力向上という言葉が耳にすることが多くなってきた。これは教員間の意識の高まりであると言える。

次年度も全国学力・学習状況調査を実施し、少しでも結果が数値として表れるようにこれからも取組を進めていきたい。